

町民の声内容（11月4日）

タイトル：どう進める あらゆる差別解消に向けた取り組み

【内容】

1. 八頭町では「やさしさあふれる人権のまち」という標語が謳われているようだが、本町は特に人権施策について進んでいるとは思えない。何を根拠に「人権のまち」を前面に出しているのか理解できない。町民に浸透しているとは思えないし、言葉だけを浸透させようとしているのか。中身を伴わず言葉だけが1人歩きすることになりはしないか。私は、本町の人権施策は現在進行形で衰退しつつあるように思えるが...

2. 平成27年度を目標に部落差別をはじめとするあらゆる差別の解消に向けた取り組みを展開してきたわけであるが、その検証はなされたのでしょうか。成果はあったのでしょうか。そのあたりの分析がなされないまま、同和問題から人権問題へと矛先を換えようとしているような現在の行政方針にいささか異和感を覚えております。真正面から同和問題解決に向けて取り組むべきではなからうか。

3. 平成27年度実施の町民意識調査報告書では八頭町には同和地区への差別意識が厳存し、近年は改善されずむしろ後退しているとあります。このような現状にもかかわらず各種の同和対策事業に関わる事項が廃止又は削除されようとしております。八頭町の同和対策における基本的な考えと今後の方針をお聞かせいただきたいと思っております。